

の中でも、特に広汎子宮全摘術によっておこる膀胱機能障害の回復への援助の実施と考察をここに発表したいと思う。

#### 4 入院時オリエンテーションのあり方について

南 8階第 1 発表者：今 井 美恵子  
中野，大塚，中川原，吉川，内田，菊川，弓削，小齊，佐藤，吉成，上田，吉田，重信，藤崎

当病棟には、0才児～15才児迄の患児が入院しており、個室、大部屋に分けて入院時オリエンテーションをしている。特に病棟の規則及び事故防止について説明を行なっているが、問題点としてあがってくるのは、幼児期にある患者のベット転落、転倒が多く、又、面会時間の厳守も徹底出来ない現状である。

これ迄にも色々検討して来たが、中々改善されていない。当科においては、緊急入院がほとんどで母親の精神的動揺が落ち着いた時点での入院時オリエンテーションである。

そして夜間で説明不足と思われる場合は、翌日付け加える様にしているが、上記した問題は、入院時オリエンテーションの内容、方法を改善する事によってある程度解決出来るのではないかと考えた。そこでオリエンテーションの内容と母親の理解度について、アンケート用紙を用いて意見を聞き、これをここにまとめてみましたので、皆様の御意見をうけたまわりたいと思います。

#### 5 「術前オリエンテーション用紙の検討」

南 2階眼科病棟 発表者：渡 辺 まゆみ  
関口，柳詰，末吉，河本，村上，小口，相澤，越智，神内，菅原

当眼科病棟においては、入院患者の殆んどが手術目的である。昭和56年1月～11月18日までの入院患者を疾患別に見てみると、総数489名中、白内障239名、網膜剝離88名、緑内障46名、斜視22名、その他に糖尿病性網膜症、網膜中心静脈血栓症、眼瞼下垂などとなっている。これらの患者の手術の90%は局所麻酔で行われている。

このように局所麻酔による手術件数が多く、これに伴い術前オリエンテーションも実施してきた訳であるが、眼科特有のオリエンテーション用紙という統一された物がなかった為、一般外科系のオリエンテーション用紙を

用い看護婦各々の判断で、口頭により特殊性をふまえて説明するという現状であった。

それらの事より

1 眼科手術後の特殊指示事項の欄がなく、個々の口頭説明である為同レベルのオリエンテーションが成されない。

2 老人患者が多いという事より、一回の説明で理解されてくく、術後指示が守れない。

3 家族へのオリエンテーションが欠除している。等の問題が生じ、本来の術前オリエンテーションの目的を十分に果たす事ができなかった。

そこで今回、眼科特有の術前オリエンテーション用紙を検討、作成する事にしたのでその経過をここに発表したいと思う。

#### 【第二群】

##### 1 「血液疾患患者の入院時アナムネーゼについて」 一看護記録1号用紙の検討一

西館 3階 発表者：森 田 貴 美  
山本，木村，石塚，坂川，武田，浜松，柳谷，香丸，佐々木，荒木，南場，小野田，畑，伊藤杉本，丹野，永吉，大津

入院時のアナムネーゼは、私達にとり、患者を把握する上で、最も重要な資料の1つである。

特に、血液疾患患者は、全身症状を呈し、急変する可能性が強いため、治療や看護の面で、より密に患者の状態を知る必要がある。

現在使用されている1号用紙では、①連絡先、②一般状態、③病識、④データ欄、⑤個人背景などを補足する面が多い。

それらをふまえた上で、血液疾患患者に合った看護記録1号用紙の修正を試みた。

対象は、現在入院している血液疾患患者のアナムネーゼ修正及び、新患者のアナムネーゼとした。

ここで、私達は、看護記録1号用紙の作成から、使用経過・考察までを発表する。